●消防救助体制の強化について

札幌市では、多様化する災害に的確に対応するため、最新装備の導入を図るとともに市内各消防署に配置する救助隊（レスキュー隊）の一部再編を行い、消防救助体制を強化します。

まず、総務省消防庁から、特殊な消防車両３台の貸与を受け、昨年４月に発足した「特別高度救助隊（愛称：スーパー・レスキュー・サッポロ）」に導入します。これらの車両は、「ＪＲ福知山線列車事故」のような大規模な事故や、サリン等の化学剤を使用したテロ災害の発生に備え、全国の主要５都市（札幌市、東京都、名古屋市、大阪市、福岡市）に配備されるものです。

さらに、近年、「新潟県中越地震」をはじめ国内で頻発している地震災害や、多数の被災者を伴う大規模災害に対応するため、高度な救助資機材を導入するなど、装備の充実を図ります。

また、２消防署の救助隊を「高度救助隊」に再編するほか、年々増加する山岳事故に対応するため「山岳救助隊」を増やすなど、市民の安全・安心を守る体制を強化します。

１　「特別高度救助隊」の機能強化

(1)　総務省消防庁から貸与を受ける特殊消防車両

「大型ブロアー車」　平成 19 年４月１日運用開始（納車済み、約 5000 万円）

- 大型の送風機を備えた車両
- 火災時の煙や熱気、有毒ガス等の排出を行う。
- トンネル火災や航空機火災に有効
- 最大風速 45m／秒（平成 16 年９月８日台風 18 号による札幌市の最大瞬間風速は 50.2m／秒）
- 送風能力 210,000 ㎥／時（約５時間で東京ドーム１個分の空気を送ることができる。）

「ウオーターカッター車」　平成 19 年４月１日運用開始（３月 29 日納車予定、約 3000 万円）

- 高水圧で金属やコンクリートなどを切断する器具を備えた車両
- 列車事故現場や火花を出せない環境での救助活動に有効
- コンクリート電柱を約１分で切断

「大型除染システム車」　平成 19 年６月ごろ貸与予定、約 4500 万円

- サリン等の化学剤などの汚染拡大を防ぐため、毒性物質が付着した被災者をシャワーで洗い流す器具を備えた車両
- １時間で約 200 人の除染が可能

(2)　高度救助資機材（平成 19 年度導入予定）

「電磁波探査装置」（約 1500 万円）

・　電磁波を利用してがれき等に閉じ込められている生存者の肺や心臓の動きを読み取り、位置を特定、探索するための器具

「二酸化炭素探査装置」（約 500 万円）

・　呼吸によって排出される二酸化炭素、汗や排せつ物からのアンモニアを検知し、がれき等に閉じ込められている生存者を探索するための器具

「水中探査装置」（約 1500 万円）

・　ＣＣＤ水中カメラを搭載し、陸上からの操作で水中を探索する器具

・　赤外線ソナーを備え、視界の悪い環境にも対応可能

・　水深 150m、2.8 ノットでの移動が可能

「地震警報機」（約 500 万円）

・　身体で感じることは難しいが伝わる速度が速いＰ波を検知、大きな振動を伴うＳ波の到達時間を算出し、警報を発して危険を知らせる器具

・　余震が続く中での救出活動時に隊員の安全を確保する上で非常に有効

２　「高度救助隊」の配置

大規模・特殊災害時の体制強化と救助体制の高度化を推進するため、北消防署と豊平消防署の救助隊を、最新の救助器具を装備した「高度救助隊」として再編します。

３　定山渓地区に「救助隊」を配置

救助隊の到着に時間を要する定山渓地区での事故に迅速に対応するため、南消防署定山渓出張所の消防隊の一部を「救助隊」として再編します。

４　「山岳救助隊」の増隊

定山渓地区および手稲山方面での山岳事故の増加に対応するため、現在、南消防署に１隊配置している山岳救助隊に加え、定山渓出張所の救助隊と手稲消防署の救助隊を「山岳救助隊」に指定し、３隊に増やします。

５　特殊消防車両のデモンストレーション

大型ブロアー車とウオーターカッター車の性能等について、平成 19 年 3 月 29 日（木）午後３時から札幌市消防学校（西区八軒 10 条西 13 丁目）で報道機関向けのデモンストレーションを行います。

問い合わせ先：消防局警防部消防救助課
山崎・前川　011-215-2060